

科目名	メディアと国際関係特論 一日中韓関係の見方	担当教員	大嶋 英一
科目属性	専門科目群E	単位数	2単位（面接0.5単位）
<p><b>【授業概要】</b></p> <p>アングロサクソンや中国人は戦略的にもものを見るのが得意であるのに対し、日本人は細かいことにはよく気づくが大局的に物事を捉えるのが苦手だと言われる。報道にもそのような特質が現れており、殊に国際報道ではそれが顕著である。本特論は、単なる国際関係論や国際政治に関する授業ではなく、現実には東アジアで起きていることを題材にして、それらの歴史的背景、国際システム特有の動き、国際秩序への影響などを考察することによって国際間の出来事がより深く理解できることを示す。具体的には、北朝鮮の核・ミサイル問題、南シナ海問題、歴史認識問題、中国の台頭等を取りあげる予定である。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際関係を多面的に見ることができるようになる</li> <li>2. 巨視的見方と微視的見方、ダイナミックな見方とスタティックな見方等の違いを知る</li> <li>3. 法的見地と政策的見地を区別できるようになる</li> <li>4. 共生的な世界の実現には何が必要か考えられるようになる</li> <li>5. 国際的事象に関し、表面的な動きに惑わされることなく深い洞察に基づいた報道ができるようになる</li> </ol> <p><b>【授業計画】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本・中国・韓国の安全保障観</li> <li>2. 国際社会と国内社会</li> <li>3. ナショナリズム（3回） <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)近代国家とナショナリズム</li> <li>(2)ナショナリズムと歴史問題</li> <li>(3)ナショナリズムと海洋問題</li> </ol> </li> <li>4. 戦後の国際秩序と日米安保体制</li> <li>5. 日中関係と日韓関係の基本的枠組</li> <li>6. 北朝鮮の核・ミサイル問題と東アジアの国際秩序（3回） <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)核不拡散体制</li> <li>(2)瀬戸際外交</li> <li>(3)中朝関係</li> </ol> </li> <li>7. 中国の台頭と国際秩序（3回） <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)中国の政治の仕組</li> <li>(2)中国の対外関係</li> <li>(3)トゥキディデスの罠</li> </ol> </li> <li>8. 東アジアの将来と共生の道（2回） <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)普遍的価値と共生</li> <li>(2)国際情勢と日本の政治</li> <li>(3)日中関係のマネジメント</li> </ol> </li> </ol>			

**【評価方法】**

評価は、スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、「科目修得試験」（50%）の割合で行います。

**【教科書】**

1. ジョセフ・ナイ他『国際紛争』（原書第10版）有斐閣 2017年
2. 田中 均『日本外交の挑戦』角川新書 2015年
3. 加藤陽子『それでも日本人は「戦争」を選んだ』新潮文庫 2016年
4. ビル・ヘイトン『南シナ海』 河出書房新社 2015年

**【参考図書・サイト】**

1. 山影進『国際関係論講義』東京大学出版会 2012年
2. 重田園江『社会契約論』ちくま新書、2013年
3. 長有紀枝『入門 人間の安全保障』中公新書 2012年
4. 和田春樹『北朝鮮現代史』, 岩波新書, 2012年
5. 田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』[新版] 有斐閣 2010年
6. 外務省ホームページ：<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>
7. 国連広報センターホームページ：<http://www.unic.or.jp>